

事務局:〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

明治学院大学 経済学部大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp

TEL & FAX 03-5421-5639

会費振込口座:「経営哲学学会」00160 - 9 - 573076

学会ホームページ: <http://www.jamp.ne.jp>

## 理念か夢か

江戸川大学 大石 剛

経営理念を掲げる企業が増加していることは喜ばしい現象であるが、改めて各社の事例を検討してみると経営者の志、夢がまったく感じられない経営理念が多いことに気付かされる。今をときめくトヨタの経営理念はその典型である。理念と称する7項目は、主としてCSRのキーワードを総花的にちりばめているだけの「スローガン」にすぎない。経営理念はどうあるべきなのか。以下、酒造会社を例にとって問題提起をしてみたい。

日本古来の伝統酒日本酒は、いま危機的状況にある。酒類におけるシェアはすでに8%台となり、しかも需要は年々低下している。その中であって宮城県の「一ノ蔵」は、長期にわたって増益を更新し続けており、業界のモデル企業と目されている。同社は約30年前に4つの蔵が合併してできた新しい酒蔵である。売上高は約60億円、従業員数160人、日本酒メーカーとしては中規模であるが、その行動は革新性に溢れている。

たとえば、最近同社は、本年末を目標に農業生産法人「一ノ蔵農社」を設立し、米作りを中心とする農業分野に進出することを決定した。株式会社の農業進出には規制があるため、所在地の宮城県松山町に県内では初の「農業特区」指定の申請を行い、農家は松山町を経由して一ノ蔵に農地を貸し出す方式をとる。これによって同社は「農家」となることができる。このプロジェクトの目的は、良質の酒米の確保と多様な有機農産物の生産・販売にあるが、真のねらいは農業生産法人を「プラットフォーム」とみなし、農家・食品会社など多様な関係者にさまざまな形で事業参加してもらいながら「皆が幸せになる農業ユートピア」という夢の実現にあり、それは地域社会への貢献という経営理念の実現に結びついている。経営者の発想が常に理念の実現という意識に基づいているだけでなく、なによりも歴代経営者に高い志がある点でこの酒蔵は並の企業ではない。

以上の事例から考えさせられることは、多くの理念におけるスローガン化、空虚さを避けるためにも経営者は「志」を語り、企業としての「夢」を語る事が大事なのではないか。そして成員が皆で夢を共有しながらその実現を図ることが本来の経営活動なのではないか、ということである。堅苦しい決まり文句で人の心を動かすことはできないことを経営者は認識すべきであろう。そのためにも「経営理念」という表現を変える必要がある。

## 1. 全国大会報告

### 第21回全国大会を終えて

青森公立大学 吉原 正彦

経営哲学学会第21回全国大会は、8月6日から8日までの3日間、青森公立大学で開催されました。青森という開催地ゆえに交通の便が必ずしもよくなく、また開催時期が学期末で会員の方々には忙しいにもかかわらず、87名の出席がありました。

統一論題は、経営を生きる 経営者の役割を問う であり、4つのテーマで行われました。第1セッションの〈大学経営〉では、“日本の大学は組織といえるか”を問題提起された佐々木恒男氏、討論者を小田 章氏と山田雄一氏として、競争激化での大学の存在理由、組織のあり方、教員の問題について、参加者にとって直接の問題ゆえに活発な論議が交わされました。第2セッションの〈企業経営〉では、“会社は、誰のものか”を問題提起された中條秀治氏、討論者を菊池武弘氏と菊澤研宗氏として、所有概念の多義性、公共交通への適用、所有と効率性が議論され、問題の難しさが浮き彫りにされました。

第3セッションの〈NPO経営〉では、“NPOのマネジメントと経営哲学”を問題提起した大滝精一氏(当日は欠席)、討論者を中橋勇一氏と大木裕子氏として、公益性と収益性の問題、青森県の実践、芸術経営を通したNPO経営のあり方が論じられ、新たな領域での経営の意味が議論されました。第4セッションの〈行政経営〉では、“IT時代における自治体の広報公聴”を問題提起した川上和久氏、討論者を佐々木誠造氏と澤 茂樹氏として、行政広報誌を通した自治体経営、行政トップとしての経営、コミュニケーションの視点から住民参加と行政の問題が取り上げられ、地方分権化での経営のあり方が問われました。

また自由論題は少なかったのですが、佐々木秀徳氏の「ワイクの組織化理論に関する一考察」、生田泰亮氏の「経営戦略とコーポレート・ガバナンス」、野村千佳子氏の「中小企業における個の尊重」、上原征彦氏の「マーケティングの基本思想」、李 右婷氏の「ハイテク企業のコンピテンシーモデル開発戦略の評価」の報告がありました。

大会の開催期間中は、“ねぶた祭り”であり、会員の中には大会の前日から青森に入られ、見物のみではなく、自ら跳ね人として祭りを堪能された方もありました。懇親会は、会場を移し、その昔青函連絡船でした八甲田丸で行われました。当日は、“ねぶた祭り”の最後を飾る花火での“ねぶた海上運行”があり、会員の方々に思い出深い懇親を過ごされたのであれば、開催校として幸いです。

大会開催が“ねぶた祭り”期間中ゆえに、会員の皆様には交通の確保や宿泊費の高さに大変ご迷惑をおかけいたしました。しかしながら、多くの会員が参加されて青森に触れていただいたとともに、さまざまな事業を取り上げ“経営を生きる”ことの本質問題に迫り得たこと、開催校を代表して深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 2. 経営哲学学会第21回全国大会総会(資料)

### 1. 平成15年度事業報告

#### (1)全国大会

##### 第20回全国大会

開催校 中京大学

開催日 平成15年9月12日(理事会)・13日・14日

統一テーマ「経営哲学は死んだか 日本企業の経営実践の基層を問う - 」

#### (2)地域部会

##### (A)関東部会(厚東偉介部会長)

・平成16年3月6日(土)早稲田大学

上原征彦 氏(明治学院大学)

「マーケティングのニューパラダイム」

境 新一 氏(東京家政学院大学)

「特許訴訟に関わる課題と展望 「職務発明」の「相当の価格」検証を通して 」

・平成16年7月10日(土)三学会合同部会:日本労務学会、実践経営学会 日本大学

石毛昭範 氏(早稲田大学大学院)

「キャリア・ツリー分析の意識と限界」

三井 泉 氏(日本大学)

「経営と宗教 経営人類学の視点から 」

北澤邦子 氏(和光堂(株)取締役)

「和光堂(株)の経営理念とCSR」

##### (B)九州部会(池内秀己部会長)

・平成15年11月22日(土)九州産業大学

池内秀己 氏(九州産業大学)

「経営学の主流と本流 管理の科学と哲学」

三戸 公 氏(立教大学・中京大学)

「経営学とはいかなる学か その主流と本流」

##### (C)関西・中部合同部会(三井泉・中條秀治部会長)

・平成15年12月20日(土)越前三国国民休暇村

奥村真澄 氏(特別養護老人ホーム施設長)

「特別養護老人ホームの経営(「光苑」の事例)」

今村善孝 氏(大電産業(株)取締役社長:福井経済同友会代表幹事)

「自社の経営と経営哲学」

##### (D)北海道部会(大平義隆部会長)

・平成16年3月18日(土)北海学園大学

大平義隆 氏(北海学園大学)

「組織の合理性に関する一考察」

#### (3)他学会との交流

##### (A)第1回・海外研究交流プロジェクト

(21回「環太平洋学術交流会議」(Pan-Pacific Conference XXI)に合流参加)

・平成16年5月26日・27日・28日 アラスカノアンカレッジ

How Can the Economy be Consistent with Society?

西岡健夫(追手門学院大学)

Relativity of the Japanese Management Culture- Perspective on Management Values in the Japanese Context

小森 茂(上武大学)

New Paradigm of Growth Strategies Especially for Small Manufacturers

山本久義(九州産業大学)

Relativity in Global Management: Dilemma of Japanese Corporations

馬越恵美子(桜美林大学)

The Management Philosophy of Toyota Executives-Glocal Strategy of 'Ie' and 'Mura' Doctrine

村山元英(中京大学)

(B)フードサービス学会との合同研究会へ向けて

・平成16年3月6日の関東部会の際に、両学会の合同研究会へ向けての打ち合わせ検討会を行った。

(4)会報

第33号 平成15年11月 1日 発行

第34号 平成16年 5月21日 発行

(5)機関誌(論集を含む)

『経営哲学 創刊号』(経営哲学論集第20集) 平成16年7月25日発行

(6)研究奨励賞

受賞者:石井康彦(高千穂大学)

「近年の会計粉飾事例からみた経営行動と統治システム」

桑原光一郎(上智大学大学院)

「コミュニタリアニズム的視点による『経営』における人間観  
組織論における形而上学回転として 」

村山元理(常盤大学)

「ビジネス・パラダイムの基礎 ウィリアム・ハーマンのヴィジョンを中心にして 」

(7)総会・理事会・常任理事会

総会 1回 平成15年 9月13日

理事会 4回 平成15年 9月12日・13日・14日  
平成16年 6月26日

常任理事会 4回 平成15年11月 1日 平成16年 2月14日  
平成16年 3月 6日 平成16年 6月26日

(8)各種委員会

プログラム委員会 4回 平成15年11月 1日 平成16年 2月14日  
平成16年 3月 6日 平成16年 6月26日

広報委員会 2回 平成15年12月20日 平成16年 6月26日

編集委員会 4回 平成15年11月 1日 平成16年 2月14日  
平成16年 3月 6日 平成16年 6月26日

研究奨励制度審査員会 平成16年 6月19日 (審査報告書受理)

## 5. 平成16年度事業計画

### (1)全国大会

開催校 青森公立大学

開催日 平成16年8月6日(理事会)・7日・8日

### (2)地域部会

北海道部会 東北部会 関東部会 中部部会 関西部会 九州部会 沖縄部会

### (3)国際交流ならびに他学会等との合同研究会

### (4)会報

第35号 第36号

### (5)機関誌

『経営哲学 第2巻』(経営哲学論集 第21集)

### (6)総会・理事会・常任理事会開催予定

総会 1回 理事会 4回 常任理事会 5回

### (7)各種委員会

## 7. 経営哲学学会研究奨励制度審査委員会報告

審査委員長 齋藤 毅憲

本年度の審査対象となった論文は、13本であった。昨年度が6編であったから、本年度は約2倍以上に増加している。審査委員全体の意見をまとめると、桑原光一郎論文がトップ、石井康彦論文と村山元理論文が第2位であった。この後に、郭論文、小濱論文、吉村論文、間嶋論文が優秀なものと評価されている。

このなかで、本年度は桑原、石井、村山の3論文を奨励賞に決定することにした。桑原、村山論文は、まさに学会の趣旨にマッチしたものであるとの評価を得ている。これに対して、石井論文は、その点では劣るものの、結論の具体性などですぐれたものになっている。

審査対象論文は増加したが、学会の趣旨にあわないとか、関係のないテーマのものも見られた。また、論文作成については、内容の質の高い論文をつくることにいっそうの努力を行ってほしいが、さらに言えば、作成の形式などにも十分注意してほしいと考えている。ミスや不注意が散見されるものもあり、作成後のチェックを行うことが求められている。

## 8. 次期大会(第22回)開催校 【日程に変更がありました。p.9を参照してください】

開催校: 明治学院大学

開催日: 平成17年9月2日(金)~4日(日)

## 9. 会員異動(敬称略)

会員数333名(平成16年7月24日現在)

【新入会員】

浅井 光(まちづくり福井(株))	生田泰亮(大阪大学大学院)
石毛昭範(早稲田大学大学院)	石嶋芳臣(北海学園大学)
上田 鷲(一般)	薄井海理(明治学院大学大学院)
宇都宮 守(九州産業大学大学院)	王 英燕(京都大学大学院)
大石雅也(九州大学大学院)	大木裕子(京都産業大学)
大月博司(北海学園大学)	小野宗利(小野人事管理研究所)
小泉 徹(東京都立短期大学)	齋藤貞之(北九州市立大学)
齋藤将(元福岡工業大学)	佐々木秀徳(明治学院大学大学院)
杉原英夫(九州共立大学)	田口智子(北海道浅井学園短期大学部)
竹下俊一(鹿屋体育大学)	野中洋一(日本原子力発電)
晴山英夫(北九州市立大学)	平手賢治(名古屋大学大学院)
福島浅次郎(北九州マネジメントコンサルタンツ)	
古川順一(東京国際大学)	三戸 浩(横浜国立大学)
山口厚江(作新学院大学院)	山田哲弘(株:トリード)
横川 潤(文教大学)	渡辺泰宏(日本大学大学院)

【退会会員】

井上忠勝(平成15年11月4日ご逝去)

岩井清治 上武建造 岡部曜子 小野弓郎 加藤利安 桑原哲也 小沼 敏  
佐々木篤信 田代義範 藤岡 豊 安田平八 米山高生 山下達哉 山田 稔  
若林 満 脇田良一 (以上平成15年度理事会承認済)

## 10. その他

### 3. 国際交流委員会報告

#### PPCと経営哲学学会の上海大会 英文論文報告と研究交流参加者の募集

国際交流委員会委員長 村山元英  
金山 権

先のPPC / 経営哲学学会のアラスカ大会にご参加の会員には、この機会を借りて改めて御礼申し上げます。

さて私ども経営哲学学会が、平成17年5月24日～27日に上海で開催される22回「環太平洋学術交流会議」(Pan-Pacific Conference XX )と合同セッションを開催します。「環太平洋ビジネス学会」(Pan-Pacific Business Association)との共同開催ですが、日本側は英文論文参加の形で大会運営はネブラスカ大学 / 上海大学関係者などにお任せしました。つきましては、下記の要領で英文論文の発表者と海外研究者との交流機会の希望者を募集しますのでご参加下さい。

統一テーマ:「The e-Global Age, New Economy, and China: A Close Up」

場所:上海市内(高級ホテル)

日時:2004年5月24日～27日

PPC終了後の5月28日「日本語 / 中国語による特別セッション」を計画中

仮統一テーマ:「日本の経営哲学、中国の経営哲学、世界の経営哲学」

詳細については別途案内する。

PPC(「環太平洋学術交流会議」)開催のこれまでの貢献とその成果は、若手研究者の海外発表訓練、海外研究者との専門研究交流、大学間交流の機会開発、日本での研究成果をグローバルに検証する感動、実務家から学者への自己学習の場、日米関係を越えたアジアや中国、そして世界の学者との豊富な交流機会などです。どうぞ、気楽な自己革新の機会として第2回「PPBA / 経営哲学学会」の上海大会へのご参加をお待ちします。

環太平洋ビジネス学会の提案テーマ

1. Pan-Pacific business activities and international trade
2. Strategies for the Pacific Age
3. Organization behavior in international management
4. Innovation in operations management, production, and R & D in Pacific countries Global project management
5. Comparative business ethics
6. Transferability of management systems and technologies
7. Education reform for the 21st Century
8. Trade barriers, protectionism ,and anti-dumping laws
9. NAFTA, EU, GATT, AFTA, WTO and their implication
10. Public-sector reform, e-government
11. Tourism and hospitality
12. Environmental management
13. Business and information systems architecture
14. Internet, Intranet, and E-Business
15. International Finance
16. Global marketing
17. International economics

申込方法

発表申込 (題名のみ/仮題可) 平成16年10月15日より

論文概要提出 (abstract paper) 平成17年1月15日まで

プロシーディング掲載用論文提出 (full paper) 平成17年4月1日まで  
(審査後の掲載論文については頁制限あり(詳細は追ってお知らせ)。

申込先: 経営哲学学会・国際交流委員会リエゾン・オフィス

中京大学経営学部・村山元英研究室

大学研究室: 〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2

声・052-832-2151 ファックス・052-835-7197 052-835-7622(直)

E-mail: murayama@mecl.chukyo-u.ac.jp 携帯: 090-3409-6138

自宅研究室: 〒289-1618 千葉県山武郡芝山町山中987-2

声・0479-77-1505 ファックス・0479-77-1877 E-mail: fwhw4649@mb.infoweb.ne.jp

#### 4. 機関誌『経営哲学』への投稿論文募集

機関誌への投稿論文を募集しております。会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。具体的な執筆方法、投稿方法等は同封の「『経営哲学』執筆要領」「『経営哲学』投稿規程」をご参照下さい。

#### 5. 次期全国大会(第22回)の日程変更について

第21回全国大会(於:青森公立大学)における総会、ならびに理事会にて、第22回全国大会の開催校は明治学院大学、開催日程は平成17年9月16日・17日・18日もしくは9月23日・24日・25日を予定していることをご報告いたしました。日本経営学会の開催場所・日程(九州大学:9月7日~10日)等を勘案しました結果、日本経営学会の前の週の平成17年9月2日(金)・3日(土)・4日(日)に変更させていただきたく思います。会員の皆様には事情ご賢察の上、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

#### 6. 会員名簿の発行について

本年度は、会員名簿を作成する年度になっておりますが、会員総会でもご報告・ご了承いただきましたように、来年度の役員改選等を考慮いたしまして、正式な名簿の作成を来年度に繰り越し、本年度に関しては簡易版の名簿を作成することいたしました。何卒ご了承下さい。

なお、住所等変更や所属変更のある方は、平成16年11月13日(土)までに事務局にお知らせ下さい。

#### 7. 学会ホームページについて

学会ホームページで会員のご著書等の紹介をしたいと考えております。ご希望の方は学会事務局までお知らせください。

アクセス数が、10月4日現在1100を超えました。引き続きご活用ください。

経営哲学学会事務局 ホームページ: <http://www.jamp.ne.jp>

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学経済学部 大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp TEL & FAX 03-5421-5639